

第1節 学校教育とその拡充

〈大口西小学校〉

年次	事柄
昭和五年	開校、育友会結成、校旗樹立。
〃 五二年	校舎、運動場、プール竣工。
〃 五三年	屋内運動場竣工、校歌制定。
〃 五四年	育友会活動県委嘱研究校の指定をうける。 交通少年団結成。

高等学校の新設
昭和四九年四月開校した「愛知県立丹羽高等学校」は、本町と扶桑町が中心となり、隣接市町村の強い協力のもと長年におよぶ誘致運動に成功し、住民の大きな期待の

なかで新設された。

学校敷地は大口町上小口地区と扶桑町高雄地区にまたがり、静かな環境に位置し、内容の充実とともに、活気に満ちた校風がつくられている。

総面積は五一、四七五平方メートルであり、昭和五五年四月一日現在学級数二六、生徒数一、一六六名となっている。

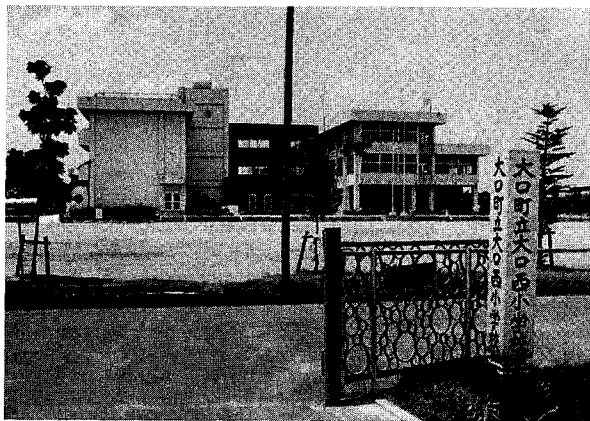


図3-121 大口町立大口西小学校

沿 革

北保育所 昭和二五年一月二月大口北小学校へ併設

東角理科室二教室を借用開所

昭和二七年現在北小学校北東の角に建築独立



図3-122 たのしい園児の様子

第二節 幼児教育の充実

保育所の
変革と充実

幼児の保育・教育の施設としてこの地方では大正二年犬山で私立の幼稚園ができたのが最初である。戦中・戦後には

住民の多くが戦争あるいは食糧増産のため動員され、幼児の面倒は寺院や公共施設に設けられた「託児所」でみるところが多く、農家にとつては大へんな助かりであった。本町では農繁期に臨時託児所の開設が多く見られた。

昭和二三年児童福祉法が制定され、福祉行政が充実してくるにつれて大口町でも保育所設置の声が高まり昭和二五年に設立され、本町の幼児教育も活発になった。

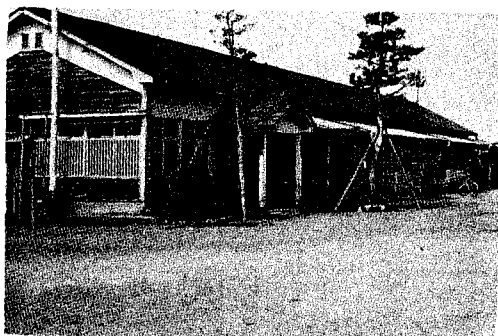


図3-124 南小学校運動場にあつたころの南保育所

こうして保育所には就学前の幼児が入園し、小学校一年生入学者の大多数が保育園を修了するようになり、本町の幼児教育は普及、充実してきた。その後、町の発展とともに人口が増加し幼児教育への認識の高まりが見られた。また、主婦労働の増加などによって保育所増設の声が高まり、幼児教育費の増額とともに保育所の追加設置をみた。

昭和四一年 大口中保育所設置

昭和三六年七月五条川の東(現三商KK)へ移転
昭和四六年六月現在の場所へ新築移転
昭和二五年一月大口南小学校へ併設

第一校舎二教室借用開所

昭和二七年小学校(今のプール)東角に建築独立
昭和四三年五月現在の場所へ新築移転

併設時代は小学校普通教室をかり、二クラスで発足していた。独立した当時は遊戯室一、普通教室三、給食室で、保母二人、調理員兼用務員一人、園児八〇名ぐらいであった。

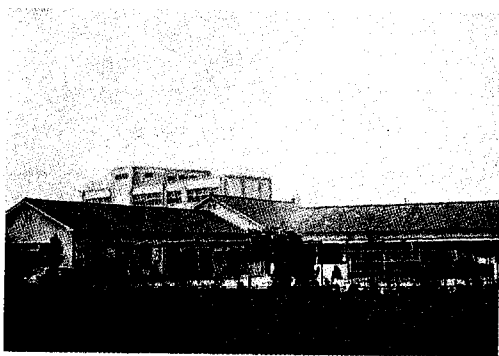


図3-123 五条川東側にあつた北保育所

昭和四五年 大口東保育所設置

〃 五一年 大口北保育所〃

こうして現在は五保育所に六〇〇人
余の幼児が通園している。

昭和五一年上小口に、五
名称変更 つ目の保育所ができた
及び所在地 き名称が次のように変更

され現在に至っている。

①北保育所 → 中保育園

大口町大字小口字山中二八

②南保育所 → 南保育園

大口町大字豊田字山根三二の一

③中保育所 → 西保育園 大口町大字余野字権現西一一五

④東保育所 → 東保育園 大口町大字河北一三四八

⑤五一年新設 → 北保育園 大口町大字小口字金三四一〇

なお私立大口幼稚園(大屋敷地内)が五三年に開園された。

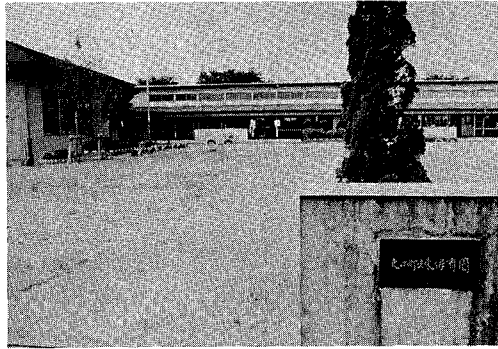


図3-125 大口町立東保育園

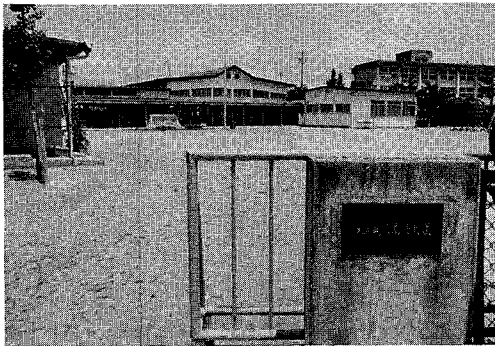


図3-126 大口町立南保育園

第2節 幼児教育の充実

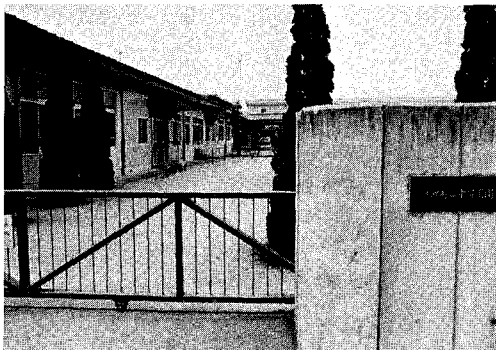


図3-127 大口町立中保育園



図3-128 大口町立西保育園

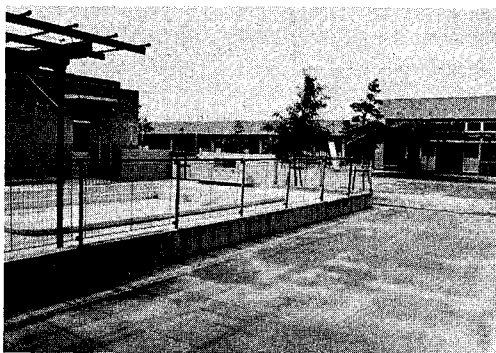


図3-129 大口町立北保育園

園児数の変化

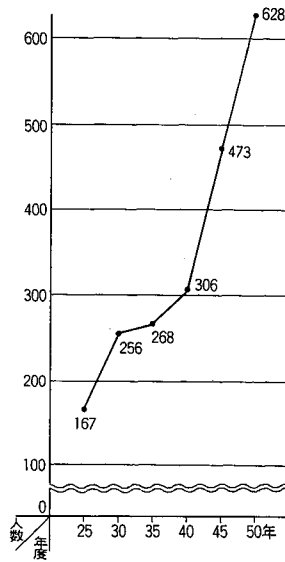


図3-130 園児数の変化(5年毎)

現在の保育園

図3-132 機構

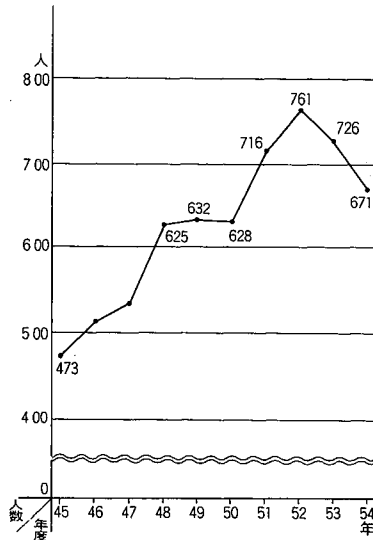
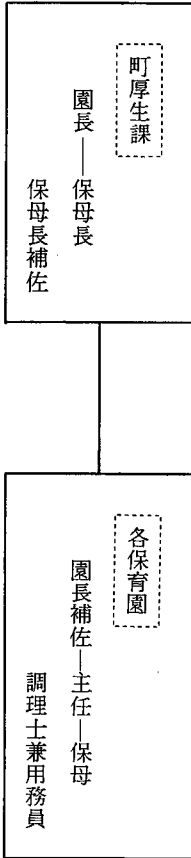


図3-131 園児数の変化(最近10年間)

第2節 幼児教育の充実

表3-139 保育園の状況

昭和55年4月1日現在

名称	園児数(人)			年令別園児数(人)				保母	面積(m ²)	
	総数	男	女	5歳	4歳	3歳	3歳未満		建物	敷地
南 保育園	150	83	67	63	52	35	—	8	749	3,070
中 〃	103	48	55	44	32	19	8	8	972	3,267
西 〃	130	74	56	58	37	35	—	8	773	3,215
東 〃	64	37	27	23	20	21		5	507	2,981
北 〃	147	72	75	58	54	35	—	8	1,095	3,600
合計	594	314	280	246	195	145	8	37		

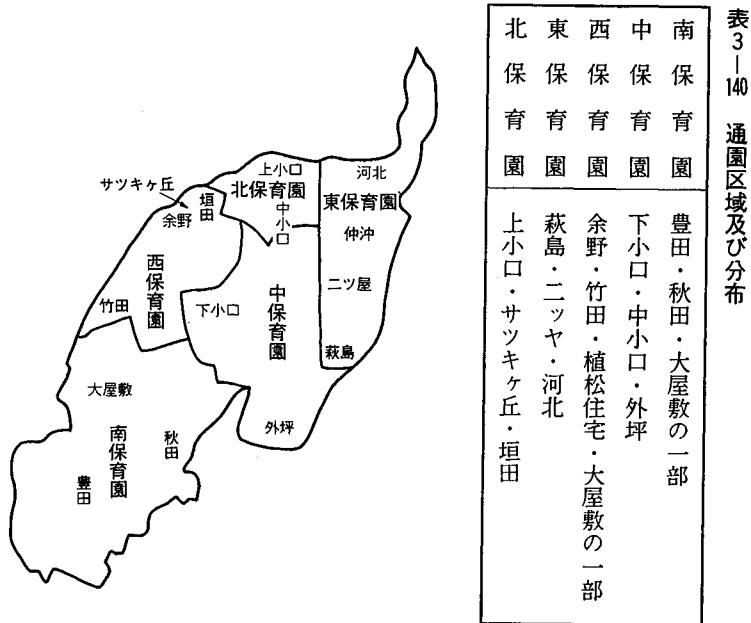


図3-133 保育園の分布(地区割)

〈保育資格の変遷〉

大口町在住の三歳から五歳児である。

昭和二五年 四歳と五歳、二年保育

二七年 三歳児保育を始める。(二年保育)

四九年 三歳児で一クラスできた。

五三年 中保育園で一歳児保育を始める。(一五名)

〈給食〉

最初は、主食(こはん)持参、副食だけの給食であったが、四八年から完全給食に切り換え、それぞれの保育園で調理室を設置し実施している。

〈保育時間〉

午前八時三〇分～四時

午前八時～三時三〇分

五四年から南・北保育園で、午後五時までの延長保育を始めた。現在三〇名である。

〈保育内容〉

保育目標を次のように定めている。

◎心身ともにたくましく、よく遊ぶ子ども

・ 自他の生命を尊重し、みずから安全に行動できる能力を身につける。

・じょうぶでがんばりのきくからだをつくる。

・自然を愛し、明るくのびのびとした心を育てる。

・自分で考え、なにごとにも行動にうつしてやりとげる態度を養う。

・友だちを大切に、互いに協力して遊ぶことができる態度を養う。

・豊かな表現活動とおして、楽しく創意工夫する能力を養う。

この目標をもとにして、年齢別保育のねらいがきめられ内容が明確化されている。保育計画は、健康、社会、言語、自然、音楽、造形の六領域にわけられ、発達段階に応じた指導をし、生涯教育の一環として豊かな人間性を養うための努力をしている。

また「母の会」が保育園単位で組織され、年次計画を立て、会員、保母と連絡をとり会の運営にあたり、園児の幸せを願っている。

第三節 社会教育の拡充

社会教育と 昭和二七年の大口村社会教育（公民館活動）の、全国大会での表彰という立派な、大口村社会教育初期
公民館活動 の発展を基礎にして、昭和三〇年代の社会教育は公民館を主体とした活動の中で活発になった。大戦後
の進展 一〇余年を経過して、社会全般に落ち着きを見せ戦後の復興も軌道にのり、人々の目は、その日、その

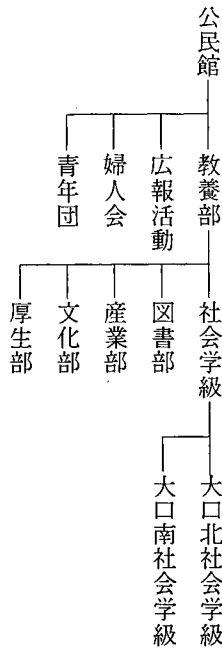
日の生活のみでなく、文化的な面へも広がりを見せた時期である。衣・食・住に対する不満は、まだまだ未解決であ

つたが、生活の改善や文化的要求へと目を向ける余裕がでてきた。その中で、一般成人教育を基調とした社会教育は公民館活動を中枢として全国的な拡がりが目立った。

昭和三〇年度の大口村事務報告書によれば、公民館活動は、つぎに示す資料のように五部から構成され、各部が実質的な活動を行っていた。また、公民館独自の広報活動（公民館報）があり、婦人会、青年団活動も、精力的に行われていた。

昭和三〇年度社会教育の事務報告

（昭和三〇年度大口村事務報告より）



各部の活動報告

大口北社会学級

運営責任者 後藤崎治

参加者 女子一四〇名

実施回数 一二回

延時間数 三六時間

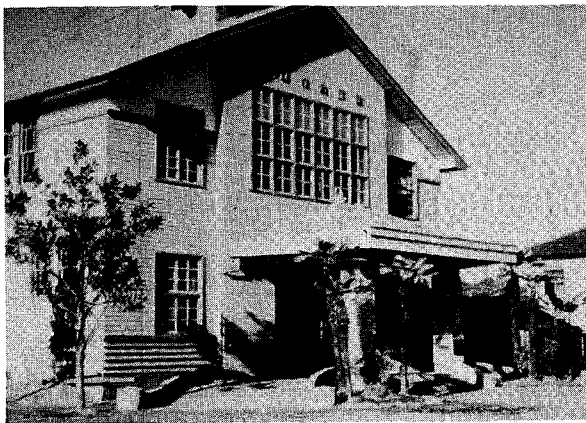


図3-134 旧大口村中央公民館の全景